

団体名：久米青空市生産組合

代表者：組合長 奥 良雄

所在地：岡山県津山市宮尾

〔ポイント〕

昭和 61 年「地産地消をモットーに、新鮮で安全、安価な農産物提供」を基本原則に、生産者が、直売活動を通して地域社会へ貢献するとともに、農林畜産物の生産、加工、販売技術を研修することを目的に、久米青空市生産組合を結成した。

平成 12 年道の駅「久米の里」オープンを契機に直売活動中心の活動を展開。

ジャンボピーマン、新高梨や自然薯など直売所を代表する特産物を育成するとともに、イチゴやネギに専業で取り組む後継者が生まれた。

津山地域の直売所で組織する「つやま地域青空市ネットワーク」に所属し、地域の直売所との情報交換や連携活動にも積極的に取り組み、津山地域全体の地産地消運動のリーダー的な役割を果たしている。

仙人まつりや、自然薯祭り、農業体験などをおして、消費者との交流に取り組んでいる。

【活動の内容】

1. 久米堆肥処理施設のモミガラ牛ふん堆肥を使用して土づくりから手がけた「新鮮・安全・安心」な津山市久米地域の朝採り野菜等を出荷し、安価で販売。
2. 地域農業の振興への貢献
生産組合、行政、農協が一体となって生産者の育成や特産づくりに努めた結果、新たな特産品が生まれ、直売所では年間を通じて多種多様な農産物の販売が可能。
3. 農産物の有効利用
ジャンボピーマン、自然薯、キノコが定着しており、これらの生産物は、道の駅「久米の里 食遊館」でジャンボピーマンアイスやとろろ飯として提供。
また、転作田を活用して作った大豆は、地元加工グループより味噌に加工され、「仙人味噌」として定着している。
4. 「顔が見え、話ができる」取り組み
津山地域の 9 直売所で組織する「つやま地域青空市ネットワーク」に所属し、地域の直売所との情報交換や連携活動に積極的に取り組む。
5. 地域特産物の技術伝承・普及などへの取り組み
生産部会では 4 つの専門部会（野菜・花き、果樹、特産、加工）を組織し、栽培技術向上研究や視察などにより、部会の取り組みとして全体の技術向上を図る。

【活動の成果】

1. 地域農業の振興への貢献
会員数 251 人、売上げ 161,571 千円、一人当たり直売所での売上げ平均は 644 千円。
高齢者や女性の生き甲斐、生産農家が順調に育ち、年間を通じての農産物販売が可能になった。
2. 畜産農家の協力で、良質な堆肥を畑に還元する取り組みが進む。
3. 地域特産物の技術伝承・普及などへの取り組み
生産部会では専門部会活動により、細やかな栽培技術研修を行い、部会全体の品質向上や、新規栽培者への技術伝承に成果を上げてきた。